

令和3年度山形森林管理署採材検討会を開催しました

令和3年7月29日(木)と7月30日(金)に、国有林野事業で生産請負(造林事業請負)を実施している事業体の各現場にて「令和3年度山形森林管理署採材検討会」を開催しました。

昨年までは請負業事体の皆様が集合して開催していた採材検討会ですが、今年はコロナ禍ということもあり山形森林管理署の職員等が各現場へ出向き最小単位の人数で開催する形とし、伐採された原木を造材する段階でどのように採材すれば価値を高めることができるかその方法について検討しました。

山形県内では広葉樹の蓄積や販売に注目が集まっていることから、生産された広葉樹は丁寧な採材を行い高付加価値材として市場で流通することの期待が高まっています。また、スギ材やカラマツ材は丁寧な仕分けを行うことで一般材や合板材比率の向上が期待されており、当日は、山形署、山形県村山総合支庁、広葉樹の委託販売を請け負う山形城南木材市場、請負事業体に参加し、各現場毎の出材の特色、出材状況、針葉樹、広葉樹別の採材方法など、どのように採材することで付加価値がつくのか実際に原木を見ながら検討し、消費者や地域のニーズに応えることができるよう参加者全員が採材のスキルや原木の見方についてレベルアップを図ることができました。また、バイオマス向けの低質材も林内から余すこと無く搬出を行うことで、安定的な木材供給に資することを確認しました。

ご参加頂きました関係各位の皆様、本当にありがとうございました。

「ウッドショック」と言われている現在、木材の需要や要望が高まるなか原木価格は値上がりしております。「良い原木には良い値段」から「良い原木には採材に一手間かけてより良い値段」となるよう山形署では関係機関や木材市場等と連携し、より良い原木に高付加価値をつけて販売できるよう日頃から職員が木材生産現場へ足を運んでおり、現場から得た知識や経験を更に深めつつ安定的な原木供給の一助となるよう実行してまいります。

